（別紙様式）

平成26年度　学校評価シート

学校名:　和歌山県立熊野高等学校　学校長名:　稗 田 敬 一

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校 幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒

本年度の重点目標	
	1　授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2　キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3　地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。
	4　倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

達成度			
	A	十分に達成した	(80%以上)
	B	概ね達成した	(60%以上)
	C	あまり十分でない	(40%以上)
	D	不十分である	(40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。

（注）1　重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。　2　番号欄には、重点目標の番号を記入する。　3　評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4　年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。　5　学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自　己　評　価

重点目標					年度評価（3月 26日 現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。生徒たちも真剣に取り組んでいる。しかし、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、家庭学習も疎かになりがちである。そのため教員の授業力向上はもとより、生徒たちに目的意識をもたせる働きかけが必要と考えられる。	教員が授業研究等を行うことで授業力向上を図っているか。 生徒の主体性向上のための、方策が取られているか。 科目選択等を通じて、生徒の目的意識向上を図っているか。	上富田町の小中高連携での授業研究を実施し、積極的に各教員が参加し、異校種からの多角的な視点を取り入れ各自の授業力向上を図る。	研究授業、研究協議を実施した際には、教科の枠を超えて内容を共有できるような情報提供の機会を確保する。	計画通りの授業研究・研究協議を実施し、各自が授業力の向上を図った。	A	研究授業・研究協議の機会をしっかりと確保し継続して実施していく。
			家庭での学習習慣の定着のため、定期的な学習課題を提供するとともにその内容も吟味する。その一方で生徒による授業評価を実施する。	課題テストや小テストの実施 生徒による授業評価の実施	各教科で、その特性を生かした課題やテストを実施した。また予定通り授業評価も行い、その結果をふまえ課題を共有した。		テストや課題を行うことで、家庭学習の重要性を認識させ、生徒の意識改革を図り、学習習慣のより一層の定着を目指す。
			生徒各自の進路に即した科目選択ができるよう丁寧な指導をおこなう。	科目選択を実施するうえで、できる限り生徒の希望が叶うよう配慮する。	生徒の希望にできるだけ沿うような丁寧な科目選択を実施した。		生徒の希望を第一に考えるとともに、将来の進路に結びつく科目選択をおこなう。
2	総合学科では生徒の進路決定率が96%と昨年と同様だった。今年度も生徒の進路実現に向けて細かい進路指導を行っていきたい。 専攻科においては42名の卒業生と39名の看護師国家試験合格者を出すことができた。今年度も引き続き多くの卒業生を出すことを目標に国家試験合格を目指して努力して行きたい。	生徒の進路実現に向けての取り組みがなされているか。 生徒自身が自ら考え行動し決定する指導ができているか。 看護科5年間の継続した指導が行われているか。	進学・就職に対応できる学力を身につけさせる。	実力テスト等での低学力者の10%減少。	○実力テストでの低学力者が10%以上減少し、基礎学力に改善の兆しがあった。 ○３年生のガイダンスを精選し効果的に実施することができた。 ○専攻科課程への進学が安定しており、国家試験の受験者も増加し合格率も高く推移している。	B	○進路未定で卒業する生徒を減らす。 →進路目標の早期確立と進学・就職に対応できる学力を身につけさせる。 ○看護科5年間の中で不安を感じたり、中だるみになる生徒がいる。 →異学年との交流会を継続し、看護師になるための意欲を維持させ向上させる。
			キャリア教育を通じて勤労観・職業観を高める。	インターンシップや校内ガイダンスの効果的な実施。			
			看護科においては卒業生の体験談や異学年との交流を通して進路に対する目的意識を高める。	生徒への継続的な進路指導の実施。			
3	農業科、吹奏楽・サポーターズリーダー、読み聞かせサークル等、教科や部活動において積極的に地域の活動に参加している。さらに、上富田町と共同で防災訓練を実施している。今後これらの活動の成果を共有化し、地域・社会の一員として一層の意識向上をはかる必要がある。	ボランティア等地域活動についてその意義を理解して参加できているか。また、取り組みの成果が校内で共有化できているか。 防災訓練を通して自らを守ることとともに、高校生として、地域でどのような行動を取るべきかを理解しているか。	教科・部活動等を通して積極的に地域の活動に参画する。	全生徒の地域活動への参加目標回数を年３回以上とする。	○サポーターズリーダー〔学校クラブ〕が70回を超える地域のボランティア活動に参加したのをはじめ、約10クラブが地域の活動に関わった。○活動の成果については、マンスリータイムス・ホームページや学校紀要『熊野』を通して、校内・地域での共有を図った。○上富田町合同防災訓練を通して、高校生としての防災意識を高めることができた。また、2年次においては救命講習を実施し、AEDの取り扱い等を実践的に習得した。	A	○部活動に加えて学科・教科学習のおいても地域との関わりが多いが、委員会活動等を工夫してさらに参加をはかる必要がある。○取り組みの共有についてはアセンブリなど直接的に行う機会をより活用する。○全体的に参加率が高まる中で、高校生がイニシアティブを持った活動の研究が必要である。
			マンスリータイムスやアセンブリ等の機会を利用して、地域活動での成果を共有する。	地域での活動を広報やアセンブリ時に積極的に取り上げる。			
			上富田町と共同の総合防災訓練を行う。消防署の指導により救急救命訓練を行う。ホームルームやアセンブリにおいて適宜防災教育を行う。	緊急時の退避行動を迅速にとることができる。AEDを適切に使用することができる。自発的な地域連携の行動をとることができる。			
4	指導件数は少なく、暴力事象等も減少傾向にあるが更なる挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。	挨拶、マナー指導の充実を行い、基本的生活習慣の確立を生徒全員が行えるよう継続した指導を行っていく。また、集団の秩序と連帯感についても常に指導の中心としていく。	頭髪服装指導 新入生宿泊研修 駐輪指導 遅刻・無断欠課防止週間 下校時自転車通学指導	学年アセンブリーで点検指導の後も指導を継続する。 校内巡視及び校門指導等の事後指導等を継続して行う。 遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行う。 些細な事象でも継続した指導を行う。	○アセンブリーでの継続指導により頭髪、服装等の指導は概ね行う事ができた。 ○遅刻無断欠課に関しては該当者の減少がみられ担任からの指導等による効果がみられた。 ○各学年の生活指導担当を中心に問題の早期発見、解決をある程度行う事ができた。	B	○生活指導の分掌でない教員がどれだけ妥協せず、毅然とした態度での指導が行えるか。 ○一担任だけでなく各学年全体での指導をより一層充実させていく。 ○挨拶などのマナーを宿泊研修以後、どれだけ継続、発展させていけるかが今後も大きな課題となる。

学校関係者評価

平成　27　年　3　月　19 日　実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

学校関係者として、熊高教育協議会の役員の方々から意見・要望・評価をいただいた。生徒指導に関しては、来校者への挨拶等がかなり定着しており、学校の継続的な取り組みを高く評価いただいた。
地域連携にかかる取り組みについては、サポーターズ・リーダー部や読み聞かせグループであるリ・ピース、吹奏楽部の活動を高く評価していただいた。
１年間を通して上富田町における、これらのクラブ等によるボランティア活動が３日に１日の割合で行われており、改めて賛辞をいただいた。
看護科に関しては、昨年度からの懸案であった看護師国家試験の全員合格者は、４２名が受験し３９名が合格した。合格率は１００％切ったものの、大幅な躍進であり取り組みの成果を評価いただいた。（※今年度は３月２５日合格者数が判明し、３３名が受験し３２名が合格した）
最後に、クラブ活動全般に関しては、全国大会出場が減り若干低調であった。来年度は国体・総体の年でもあり、ぜひ健闘を期待しますとお言葉をいただいた。